

平成29年度 学校関係者評価書

学校名	北海道 浜頓別 高等学校	校長名	榆木 伸司	実施日	平成30年 3月20日
-----	--------------	-----	-------	-----	-------------

1 学校教育目標

1 学力・体力をつくとともに、情操を培う。 2 開拓者精神を受け継ぎ、創意工夫の実行力を養う。 3 明るく、楽しい社会の形成者としての資質を養う。

2 本年度の重点目標

<p>目標に向かって心豊かで、たくましく、主体的に行動できる生徒の育成を目指す。</p> <p>(1) 進んで学習に取り組む意欲・態度を培い、社会で生きる実践力を高める。</p> <p>(2) 挨拶の励行や生活習慣の改善を促し、自己をコントロールできる力を高める。</p> <p>(3) 進路に係る情報を進んで求める姿勢及び目標を定め、ねばり強く挑戦する姿勢を育む。</p>

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

【教育活動】

項目	今年度の目標	目標達成のための方策と評価の観点	達成状況	評価	自己評価の結果	改善の方策
【学習指導】 基礎・基本を定着させ、自学自習できる人の育成	基礎基本の定着	授業評価を活用し、基礎基本の定着や理解の深化が学力向上に結びついているか	2.5	B	○効果的な学習指導のあり方及び授業内容や方法等について改善・工夫の余地があった。 ○生徒の家庭学習が十分とはいえない状況である。	◇まずは、業務の精選および調整等を図り、教員の多忙感の解消を行う。その上で校内においては、授業の相互見学等を積極的に進行。また、校外における研修等にも積極的に参加し、学習指導のあり方や授業内容の改善・工夫等の方法を模索する。 ◇生徒の学習習慣を身につけさせるべく、教科ごとに現状で行われている活動を参考にすることで、課題等を行うことを検討していく。
	授業改善の推進	授業見学を相互に行い、授業改善が進んでいるか	1.9	C		
	家庭学習の習慣化	家庭学習の習慣化に向けた取組が定着へと結びついているか	2.2	C		
	評価の改善	評価の改善を通して、学力向上策の推進がなされたか	2.2	C		
評価者の意見等	限られた人数の中で、取り組まなければいけない状況や忙しいのは理解するが、生徒の指導まで手が回らないは本末転倒である。お互いの研修の成果を情報共有したり、還元する体制や時間を創り出し、意識の向上を図る必要がある。一生懸命に取り組んでいるのは理解する。多様な業務があり、やっていないのではなく、できない面があるのだと推測する。教科は違っても、指導の方向性や柱は共通のはず、根をしっかりと張って、お互いのコミュニケーションを密にし、効果的な学習指導に励んでもらいたい。				自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
					B	B
【生徒指導】 規範意識を持ち、他人の痛みのわかる温もりのある人の育成	生徒理解の推進	面談や声かけによる生徒理解を深め、個に応じた指導が進んでいるか	3.2	B	○生徒間のトラブル対応等、指導を要する場面があったが、養護教諭やHR担任等と情報共有を密に行うことができ、必要な体制を構築し早期に対応することができた。 ○卒業後を見越した社会性を育む指導に努める必要がある。	◇生徒の情報共有と共通理解に基づく連携のあり方にはまだ課題があることから、今後も実効性のある連携に向け、課題を整理する。 ◇生徒の問題行動の早期発見・早期対応のために教員個々の教育相談スキルを高めるとともに、外部諸機関との連携も視野に教育相談体制の改善に取り組む。 ◇生徒指導事故や生徒間トラブルの未然防止に向けた取組を模索していく。 ◇基本的な生活習慣や社会のルールなど教員が生徒の見本となれるようにより意識し、生徒に教員の行動を通して指導が出来るように取り組む。
	SNS利用や、メールの向上	傾斜のない指導を組織的にを行い、規律遵守や自他の尊重の意識が高まっているか	2.6	B		
	社会性の育成	生徒会行事・部局活動を通して、社会性や自己有用感が育まれているか	3.1	B		
評価者の意見等	多様な生徒に対応するために、教育相談体制の充実や個々の教員のスキルアップは必要になると思う。学校に求められるものが年々多くなり、今の先生方は大変だと思うが、プレッシャーやストレスに押しつぶされずに、日々の教育活動や生徒対応に努めてもらいたい。				自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
					B	A
【進路指導】 進路実現を目指し、切磋琢磨して自ら切り開く能力の育成	キャリア教育の充実改善	進路情報の提供や面談の充実を図り、ミスマッチのない指導が行われているか	3.2	B	○キャリア教育を実施するにあたって、町内企業や外部機関の協力によって進めることができた。 ○特進講習や模擬試験に対する生徒の意識付けが不十分であった。	◇次年度以降も外部機関との連携を深め、キャリア教育の実施にあたって町内はもちろん、町外の大学や専門学校等にも協力を求めていく。 ◇講習や模擬試験の重要性を生徒に意識付けさせるとともに、教員間においても講習の目標や内容についての共通理解を深める。
	進路支援体制の充実	講習の充実と生徒の内発的な動機付けを図り、組織的な生徒支援ができてきているか	2.6	B		
	体験活動の充実	地域連携の下、求人開拓を行い、就労体験が行われているか	3.4	A		
	資格取得の推進	資格取得に向けた取組が進んでいるか	2.7	B		
評価者の意見等	企業説明会により、入社が決まった生徒もいると聞いている。人材確保を求める地元企業にとって、ありがたい取組であり、毎年継続して欲しい。また、入社後の離職対策にも効果があると思う。特進講習は生徒の意識や実力を高める効果的な取組であると思う。模擬試験を効果的に活用し、生徒の進路実現に繋げてもらいたい。				自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
					A	A

【健康安全指導】 心身の健康増進と環境美化の意識の高揚	健康増進に向けた指導の充実	生徒自らが健康管理できるよう保健室と連携を深め、計画的な情報提供ができていますか	3.1	B	○自己の健康管理意識が低い集団に対して、健康に興味を持たせる方が不十分だった。 ○保健室以外にも問題が小さな時から生徒が相談しやすい環境を作る必要がある。 ○校内の環境美化に対する意識付けが一部の生徒に終わってしまった。	◇健康教育に関して、養護教諭からの情報発信だけでなく、保健体育科や家庭科など教科指導、家庭や医療機関等と連携し生徒の意識を高めていく。 ◇来年度も全校生徒面談を継続すると共に、保健室にて得た情報を共有し組織的に対応していく。生徒にとってより良い相談体制作りを模索していく。教員の教育相談スキルの向上に向けた研修等を取り入れていく。 ◇保健専門委員会を中心とした環境美化活動を全校生徒へ広げて行く。
	教育相談体制の充実	個に応じた教育相談が適切に行われ、組織的な生徒支援が図られているか	3.0	B		
	環境美化の増進	環境美化意識の醸成に係わる取組が計画的に進んでいるか	2.8	B		
評価者の意見等	感染症などは日々の予防対策を啓発することで防げることが多い。自己の健康管理意識を高める指導を継続してもらいたい。					自己評価の適切さ 改善に向けた取組の適切さ
						B A

【学校運営】

項目	今年度の目標	目標達成のための方策と評価の観点	達成状況	評価	自己評価の結果	改善の方策
【地域に信頼される学校づくり】 地域から支持される学校づくりの推進	情報発信の推進	社会に開かれた学校づくりに向け、情報公開を進め、積極的なPRをしているか	3.3	A	○社会に開かれた学校づくりに向け、今年度はHPのリアルタイム更新を強化し、アクセス数が増加した。 ○中高の積極的な授業交流の課題を残したが、一日体験入学や学校説明会等を計画的に実施し、相互の理解を深めることができた。 ○地元関係機関や教育資源・人材と連携協力し、校内企業説明会の実施や体験型授業（理科・家庭科・総合学習）を充実させることができた。 ○職員間の報告・連絡・相談による情報交換はスムーズに行っていたが、課題の解決に向けた共通認識での協働体制の構築に課題を残した。	◇次年度もHPの適宜更新をすすめ、生徒や保護者へのPRを強化してアクセス数の増加を目指す。また、町の広報記事や浜高WAVEは重複する内容も多く、見直しや一本化も含めて、より魅力的なものを発行し、学校理解・信頼度の向上を目指す。 ◇授業公開や研修会を通して、近隣中学校と積極的な交流を行い、生徒の実態把握や授業改善を推進していく。 ◇職員間の報告・連絡・相談に加え調整・確認の確立による情報共有・連携をさらに進め、協働体制による教育活動推進を行う。
	近隣中との相互交流	中高連携による授業公開を行い、生徒の実態を把握し、授業改善を推進しているか	2.8	B		
	地域の教育資源の活用	地域の教育資源を活用し、地域理解に基づく教育活動を推進しているか	2.8	B		
	職員の情報交換・協働体制	報連相を徹底し、共通認識の下、協働体制で教育活動を展開しているか	2.6	B		
評価者の意見等	地元企業に就職する生徒が増えているのは、地域との連携強化や地域の教育資源を活用した体験活動の成果であると考え。課題を残した協働体制を強化し、地域に信頼される学校づくりに励んでもらいたい。					自己評価の適切さ 改善に向けた取組の適切さ
						B A
【組織運営】 学校課題の共有と迅速・的確な連携による協働体制の確立	PDCA サイクルによる計画策定	PDCA サイクルに基づき、課題の精選とその解決への方策を共有し、課題解決を組織的に進めているか	2.5	B	○学校経営シラバスの重点目標を強く意識し、教育活動の組織的計画的な推進と協働体制の確立に向け、意識改革を行う必要がある。 ○教育活動毎の即時反省は行ったが、課題を重点化し業務の効率化を図るまで至っていない。時間外勤務の縮減に向けた、業務の効率化や会議のスリム化には課題が残った。	◇全教職員が学校経営シラバスの重点目標を強く意識し、分掌・学年経営に反映させ、達成に向けPDCAサイクルを活用し、教育活動に還元する。 ◇3S（スピード・ショート・スマイル）を合い言葉に、引き継ぎ資料の整理等による業務の効率化や会議のスリム化を図り、時間外勤務の縮減を図る。 ◇業務量の偏りをなくするため、ミドルリーダーの進行管理のもと、複数体制での業務推進や経験の浅い先生方にも積極的に業務を担当させる。
	3S（スピード・ショート・スマイル）を重視した学校運営	時間外勤務の縮減に向け、業務の効率化を図り、教育活動毎に即時反省を行うなど短期的な評価方法を効果的に活用しているか	2.1	C		
評価者の意見等	多様な業務を抱え、またタイトなスケジュールの中での仕事は大変だと思う。報道の通り、時間外勤務も多い現状ではないかと推測する。一人が業務を抱えるのではなく、チームでの業務推進（先頭が入れ替わり、チームとして力を発揮するパシユート方式）を参考に学校課題に取り組んでもらいたい。					自己評価の適切さ 改善に向けた取組の適切さ
						B B
【教職員の資質向上】 校内及び校外での研修体制の促進	加付プログラムを活用した授業力の向上	ICT教材の活用や授業評価における改善を教科指導力の向上につなげているか	2.6	B	○カリキュラム・マネジメントの視点に立った授業計画や評価における改善は教科間内では行われたが、組織的に行うことができなかった。 ○教職員全体に、常に事故や事件と隣り合わせにあるという認識は低い。事例研修などを通して、危機管理意識の向上を図る必要がある。 ○学習指導や生徒指導・分掌業務等について、経験の浅い先生の積極的に聞く・相談する姿勢や経験のある先生の助言・支援する姿勢が相互に不足している。	◇授業公開の機会を増やし、参観しやすい校内体制を構築して、授業改善に向けた相互の交流の機会を増やす。 ◇「主体的・対話的で深い学び」を育む学習指導や指導と評価の一体化に向け、個々の実践や校内外の研修で得た内容や情報の還元を積極的に図る。 ◇社会や生徒の変化に応じた危機管理に対する校内研修や危機を想定した訓練等を積極的に図り、課題を踏まえ、危機管理体制・能力の向上を図る。 ◇同僚性を向上させ、話しやすい雰囲気の中で「聞く、考える、対話する、気づく」ことを目指し、日常実践の改善に努め、メンター制度の活用充実に努める。
	危機管理能力の向上	危機管理マニュアルを見直し、各自の役割を踏まえ、適切な対処法を実践しているか	2.5	C		
	研修の推進	指導と評価の一体化を見据えた研修を進めているか	2.5	B		
	資質能力の向上	メンター制度を活用した、タイムリーな研修の振り返りを行っているか	2.1	C		
評価者の意見等	教職員の危機管理意識の向上とともに、生徒の危機察知能力や回避能力を育てて欲しい。学習指導や生徒指導・進路指導の改善充実に向けて、協働体制の確立と共に同僚性を高め、生徒たちのために研修を充実させ、資質能力を高めて欲しい。					自己評価の適切さ 改善に向けた取組の適切さ
						B B

自己評価の指標

【達成状況の指標（各教職員による評価）】

- 4 具体的な取り組みが行われており、目標等の達成が期待できる。
- 3 具体的な取り組みが行われている。または、具体的な取り組みに向けて積極的に検討中である。
- 2 組織（分掌・学年等）として一般的な議論はしたが、具体的な取り組みに向けての検討に至っていない。
- 1 課題の重要度は理解しているが、全くあるいはほとんど検討していない。

【評価の指標】

- A 十分な取組が行われた。 B おおむね十分な取組が行われた。 C やや取組が不十分で改善が必要である。
- D 取組が不十分で抜本的な改善が必要である。

学校関係者評価の指標

【自己評価の適切さに対する指標】

- A 適切な評価である。 B ほぼ適切な評価である。
- C やや不適切な評価である。 D 不適切な評価である

【改善に向けた取組の適切さに関する指標】

- A 十分な効果が期待できる。 B ほぼ十分な効果が期待できる。
- C あまり効果が期待できない。 D まったく効果は期待できず、改善を要する。